

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『税金が支える、私たちの生活』

町田市立忠生中学校 3学年 林 胡桃

私たちの身の回りには税金によって支えられていることがたくさんあります。例えば、私たちの日常に必要な不可欠の道路、みんなが通っている公立の中学校の教室の机やいす、体育館で使うボールや跳び箱、教科書や教室にあるパソコン、街灯、病院、救急車などたくさんのごことに使われています。私たちが快適に気持ちよく日常生活を過ごせているのは、たくさんの人たちの税金による「支え」のおかげだとわかります。こうした話は、授業でも聞いたことがありました。だけど私は「税金って難しそう」や「大人になってから理解すればいい」「私にはまだ関係ない」など他人事のように考えていました。ですが自分の身近な出来事で「税金によって私たち（小学生から中学生）の生活が支えられている」「遠いものではなく身近なもの」と実感しました。

それは病院に行ったときのことです。予防接種・風邪・持病・体質など様々な理由で私は病院に行きます。その度に会計のときに、「2000円です」と言われ大人も子供もみんなこの値段でこれが普通だと思っていました。ですが、ある日MRIを撮ったときにお母

さんが「本当ならもっと高いけど中学生だから2000円ですんだ」と言っていました。そのときは、「そうだったんだ」くらいしか思いませんでしたが、ある日母と病院に行ったとき同じ薬を処方してもらったとき、私はいつも通り2000円だけでしたが、母は診察料と薬代、しかも私の何倍も高額が請求されていて驚きました。ビックリしたことを母に話すと「中学生まではそういう制度がある」ということを教えてくれました。調べてみると子供が病院に行った時の自己負担額が2000円になる制度がある、実際の医療費はもっと高いけれど、市や県が税金を使って払ってくれているということを知りました。

もしこの制度がなかったら、病院代が高くて体調が悪くても無理してしまう人が出てくるかもしれません。けれど税金があることで子供たちは安心して病院に行くことができます。これはとてもありがたいことだと思いました。「病気の時にすぐ病院へ行ける」という当たり前のことが税金によって支えられている、それを知ってから私は「税金は遠い存在ではない」「私も税金に支えられながら生活している」と感じるようになりました。

私はまだ多額な税金を納める年齢ではないけど、大人になって働くようになったら、自分が納めた税金が子どもの役に立っていると思ったから私もしっかり税金を納めて支える側になりたいと思いました。税金に支えられている日々の生活に感謝を忘れず過ごしていきたい大人になりたいと思いました。